

実態調査の申し入れ

理学療法士養成校である近畿リハビリテーション学院三学年学生であった大野輝民（当時39歳）は最後の臨床実習中に繰り返されるパワハラに耐えかねて姿を消し、須磨浦公園で自殺しました。ところが、前記近畿リハビリテーション学院では大野輝民が自殺する5年前にも同じような事件が起きていました。前の事件は昨年民事裁判で判決が確定してご遺族が勝訴されています。

私たち遺族や、この事件に関心を持つ者が望むのは、裁判で勝つことではありません。同じ学院で最悪の事件が二度も起きている事の原因調査と的確な防止策の確立です。私たちはこれまでに、国会議員のご協力をいただいて質問主意書を二回提出していただきました。その答弁書では「臨床実習の在り方を改善していくことについては、今後、理学療法士等学校養成施設の養成カリキュラム全体の見直しを行う中で検討してまいりたい」との回答になっています。しかし、二件の事件発生やその事実確認、検証は全く行われていない状態です。これでは、事件発生の再発防止を図る見直しにはなりません。

私たちは強く求めます。早急に事実確認を含めた実態調査を実施して、再発防止を含めた教育及び臨床実習カリキュラム見直しと理学療法士等養成校の指導、改革実施を図って下さい。そのために以下項目を含めた事実確認、実態調査をしてください。

記

I 臨床実習地(辻クリニック)に対する調査項目

2013年に事件が起きた臨床実習地においていかなる臨床実習体制がとられていたか、臨床実習指導者が実習生と一体で教育していたかなど事実確認について。

- ① 学生の実践能力を身に着けさせるために臨床実習指導者はどのようにして実習をさせているか。
- ② 実習中の学生に臨床的な観察力及び分析力を養わせるために臨床実習指導者はどのようにしているか。
- ③ 実習人員と当該施設の臨床実習指導員者数の対比は2対1程度が望ましいが、実際の対比は幾らであったか。
- ④ 臨床実習指導者が実習生を伴って患者に対応する場合、実習中であること、実習の必要性や実習内容について患者に詳しく説明して、了解や承諾を得る必要があるが、文書での承諾がとられているか。
- ⑤ 臨床実習指導者自らが患者を検査、診断、評価、治療等する場面に学生を立ち合わせ

て指導しているか。

- ⑥ 臨床実習指導者は三年以上の経験だけでなく、厚労省や関係団体が主催する研修や講習会に参加しているか。
- ⑦ 理学療法を実施する学生に対して、医師の指示はどのように行われていたか。
- ⑧ 臨床実習指導者は学生の作成した日誌や実習報告に毎日目を通して、確認や指導注意、意見等記載してサインしているか。
- ⑨ 学生は無資格者なのに患者を分担させられて、検査、診断、評価、治療法の判断や施術をさせられていないか。
- ⑩ 実習のために同じ検査や、診断を受けている患者に対してその同意はどのようにされているか、ホーマットがあるか。
- ⑪ 当該の臨床実習施設では、ロッカーや机等、学習するために最低限必要な設備が学生に提供されていたか。
- ⑫ 実習のために行われたにもかかわらず診療報酬の保険請求がされていないか。
- ⑬ 学生が受け持たされた患者について診療報酬の請求がされていないか。
- ⑭ 過去の診療報酬請求で医師が確認したサインが全ての事例で確認できたか。

II 近畿リハビリテーション学院に対する調査項目

大野輝民が自殺した 2013 年度において、近畿リハビリテーション学院は学生との連携、実習実態の把握や学生からの情報報告についての的確指導がされていたか。

- ① 近畿リハビリテーション学院では、一人目の学生自殺事件(2008 年 9 月)後、臨床実習における教育の質及び学生のメンタルヘルスを保全するためどのような対策を講じてきたか。
- ② 2013 年度の臨床総合実習施設選定にあたり、大野輝民の要望を近畿リハビリテーション学院はどのように確認したか。
- ③ 2013 年度に実施された近畿リハビリテーション学院におけるスーパーバイザーに対する説明会の実態はどのようなものであったか。
 - ・ 内容
 - ・ 開催時期
 - ・ 具体的参加者
- ④ 近畿リハビリテーション学院のスーパーバイザーに対する説明会で辻クリニックのスーパーバイザーと大野輝民の面談がいつ実施されたのか。
- ⑤ 2013 年度、大野輝民の臨床総合実習開始に先立って辻クリニックのスーパーバイザーに対して学院の実習指導要項をいつ説明し理解を得たか。
- ⑥ 2013 年度の臨床総合実習開始に先立って、大野輝民のメンタルヘルスの状況を近畿リハビリテーション学院はどのように確認したか。
- ⑦ 2013 年度の臨床総合実習開始に先立って、近畿リハビリテーション学院は大野輝民の

保護者との会議をいつ実施したか。

- ⑧ 2013 年度、近畿リハビリテーション学院で学生の保護者との全体会議はいつ行われたのか。
- ⑨ 2013 年度の大野輝民の臨床総合実習開始に先立って、実習指導教員の実習地訪問はいつ行われたか。
- ⑩ 2013 年度の大野輝民の臨床総合実習期間中に実習指導教員の実習地訪問はいつ・何回行われたか。
- ⑪ 2013 年度の大野輝民の臨床総合実習期間中に実習指導教員とスーパーバイザーとの電話による連絡報告の具体的内容と実施時期。
- ⑫ 2013 年度の臨床総合実習期間中に、近畿リハビリテーション学院は大野輝民の保護者とどのように連携したのか。
- ⑬ 2013 年度の臨床総合実習期間中に、近畿リハビリテーション学院は大野輝民の主治医とどのように連携したのか。
- ⑭ 2013 年度の臨床総合実習期間中に、大野輝民の登校はいつ予定されていたか。
- ⑮ 2013 年度の臨床総合実習期間中に行われた、大野輝民の体調管理及び実習進捗状況のメールによる報告と教員からの返信の具体的内容。
- ⑯ 2013 年度の臨床総合実習期間中、大野輝民の実習地の状況把握のための状況把握シート及び指導状況シートの内容。
- ⑰ 2013 年度の臨床総合実習期間中、大野輝民に対して「学生を無下にするような発言」がスーパーバイザーからあったと実習指導教員は認識しているが、パワハラ被害を訴えている大野に対して別の実習地を検討したか。
- ⑱ 大野輝民が自殺した 2013 年度当時の近畿リハビリテーション学院専任教員について
 - ・ 専任教員の人数は法令通りに確保されていたか。
 - ・ 昼間部と夜間部での専任教員の兼務はなかったか。
 - ・ 専任教員の名義貸しの実態はなかったか。
 - ・ 専任教員の授業時間数は概ね 10 時間以内であったか。
 - ・ 専任教員が外部の施設で理学療法士として勤務する事実はなかったか。
- ⑲ 近畿リハビリテーション学院生では入学生の進路については、2010 年当時の分析で 40%が中途退学することが開示された行政文書から明らかとなっているが、入学年度ごとの中途退学学生の実数及び留年する学生の実数はどうなっているか。
- ⑳ 近畿リハビリテーション学院が新入生勧誘のために国家試験合格率として謳っている数字が、実態を反映したものであるか。
- 21 近畿リハビリテーション学院では、学生の技量の修得が実践可能な水準に達しているかどうかについて、臨床実習前にどのように確認していたのか。

以上